

<全体分析>

試験時間 2科目で120分

解答形式

選択, 記述, 論述

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問数と小問数は昨年度と変わらず, 問題ページ数はやや減少したが, 論述量はほとんど変わらなかったため, 全体の分量は昨年度と大きく変わらなかった。また, 全体的な難易度も昨年度と大きく変わらなかった。

出題の特徴や昨年との変更点

知識問題, 考察問題ともに難度の高い問題が出題される。

試験時間に対する問題量が非常に多い。

昨年まで出題されていた描図形式の設問がなかった。

その他トピックス

特になし

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	選択 記述 論述	遺伝子	生物基礎 生物	問5-1 レトロトランスポゾンが転移する際には, 付近に存在する遺伝子とともに転移することがあり, これが遺伝子重複を引き起こして進化の要因になることも知られている。	標準
II	記述 論述	植物の環境応答 生物の体内環境 細胞代謝	生物基礎 生物	問3 下線部(1)に「上記の植物ホルモンは互いに抑制的にはたらく」とあることから, サリチル酸の産生が過剰になると, ジャスモン酸, エチレン, アブシシン酸のはたらきが抑制されると考えられる。解答例以外に, ジャスモン酸やエチレンのはたらきが抑制された場合の不都合について述べてもよいだろう。	標準
III	選択 記述 論述	発生 進化 系統	生物	問5-2 設問文に「文章Aの説明と同様な現象が起こっていると仮定して」とあるので, BMP と形成体から分泌されるタンパク質(ノギンやコーディン)の関係に基づいて考える。 問6 解答例以外に「異性へのアピール」などの解答も考えられる。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・教科書レベルの基本的な知識を, 正確に論述できるようにしておく。
- ・実験考察問題の出題頻度が高いので, 実験結果などを要点をまとめて論述する練習を重ねておく。
- ・試験時間に対する問題量が多いので, 問題演習を重ねて問題文の読解や解答作成の速度を上げておく。